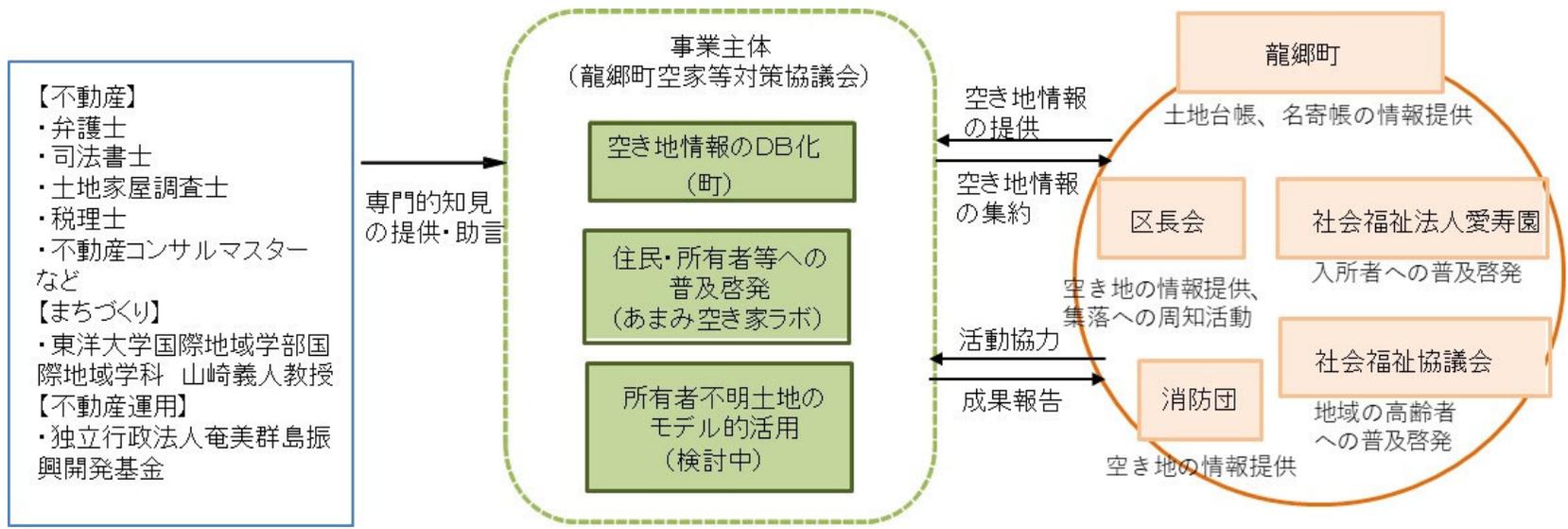


活動範囲	対象地域の特性	地域が抱えている課題	取組の方向性	解決方策
集落	集落の過疎化が進む一方で、奄美大島の豊かな自然環境にあって、島内外からの転入希望者は依然増加傾向にある。	転入希望者に紹介できる住宅や宅地が不足する一方で、管理放棄地による地域の環境や景観の悪化が見られる。	発生予防	<ul style="list-style-type: none"> ●土地の流動化、管理放棄地の発生抑制のためのしくみづくりに向けた実態調査を行う。 ●住宅地エリアの土地の権利状況や農振地等の規制を見える化するマップを作成する。 ●将来所有者不明（管理放棄）になる可能性をパターン化し、パターンごとに専門家とともに対策やしきみづくりを検討する。

事業内容・スキーム

- 所有者不明土地の発生抑制を図るため、空き地のデータベース化、町民や所有者への普及啓発を実施する。
- 所有者不明土地の活用の具体的なイメージを普及するため、モデル地区において活用を試行し、成果を広く普及する。
- 事業主体は、龍郷町空家等対策協議会の部会として設置し、当面は、現状を協議会で共有しながら、NPO法人あまみ空き家ラボなどによる普及啓発を行うことを検討する。



取組目標	取組内容と成果
土地の実態調査と見える化	都市計画区域外と区域内では、登記後の経過年数に差異があり、都市計画区域外では年数が経過しており所有者不明になるリスクがあることを確認した。さらに、田舎の集落になると所有者不明土地が増えることが容易に推察できる結果となった。
土地の将来のリスクをパターン化とパターンごとの対策検討	所有者不明土地になるプロセスをパターン化したことで、議論において大変有効で役立った。また、各パターンに属する土地の所有者について、年齢や居住地を重ね合わせて整理することで、所有者不明土地の発生予防のための現実的な対策が考えられる（例：高齢者サロンへの広報、島外在住者への広報など）。
空き地対策の方向性と実施体制への提言	不動産の専門家だけでは議論の範囲が狭くなりがちで、今回は弁護士やまちづくりの専門家などが加わったことで、全体を俯瞰して議論ができた。人材が不足するなかで新たな体制をつくるよりも既存の組織を拡大するかたち（空家等対策協議会）が事務的な作業の負担軽減にもつながる。